

2022年度 第3四半期決算説明資料

対象期間：2022.4.1-12.31

2023年2月9日

2022年度 第3四半期 連結決算のハイライト

(億円)	21年度 1-3Q実績	22年度		22年度 通期計画 (2/9修正)	
		1-3Q実績	前年同期比		通期計画 進捗率
売上高	7,699	7,980	+3.7% +281	75.4%	10,580
営業利益	790	647	△18.1% △142	83.5%	775
営業利益率	10.3%	8.1%	△2.1 pt	—	7.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	561	472	△15.8% △89	76.2%	620
E P S	387.81円	336.24円	△51.57円	—	440.89円

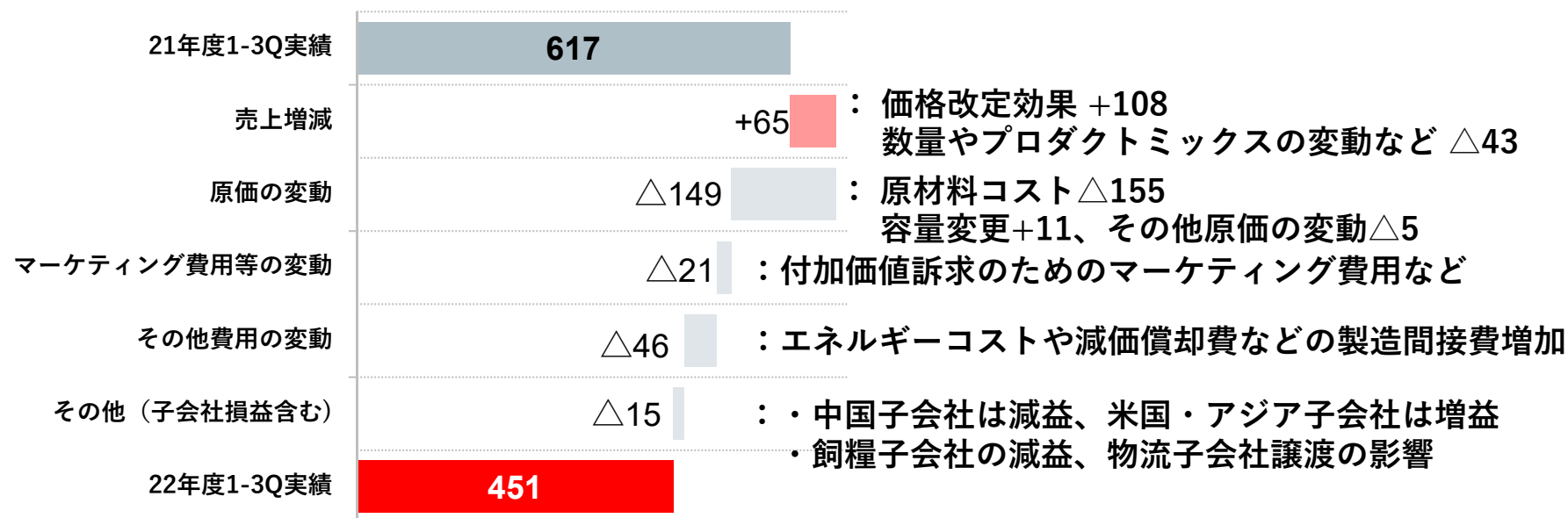
● 3Q累計実績：増収減益

- ・ 売上高は食品、医薬品ともに増収
- ・ 営業利益は、食品は大幅減益、医薬品は大幅増益
- ・ 四半期純利益は営業減益の影響で大幅減益。特別利益・特別損失はいずれも減少

食品：2022年度 第3四半期 決算概要

(億円)	21年度 1-3Q実績	22年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	22年度 通期計画 (2/9修正)
売上高	6,263	6,499	+3.8% +236	75.5%	8,612
営業利益	617	451	△26.9% △165	75.2%	600

営業利益 増減分析



食品：2022年度 第3四半期 決算概要

■ ヨーグルト・チーズ事業の概況

(億円)	22年度 1-3Q実績	前年同期比
売上高	1,515	△4.9% △78
営業利益	169	△36.4% △96

売上高 対前期増減率	1Q	2Q	3Q
プロバイオティクス	△9.8%	△7.8%	+3.1%
ヨーグルト	△6.1%	△5.9%	△8.9%
チーズ	△9.5%	△8.0%	+0.2%

● 市場

- ヨーグルト：△1～2%
- チーズ：△2～4%

→3Q累計では前年同期を下回るが、マイナス幅は縮小傾向

● 売上高

- 付加価値訴求を徹底し、価格改定は定着
- マーケティング活動を強化したプロバイオティクスは、10月発売の「脂肪対策ヨーグルト」および既存の「LG21」「R-1」がいずれも好調に推移
- ヨーグルトやチーズは、他社の低価格品との競争で数量の伸び悩みが続く

● 営業利益

減収に加え、原材料コストやエネルギーコスト、マーケティングコスト増により大幅減益

価格改定

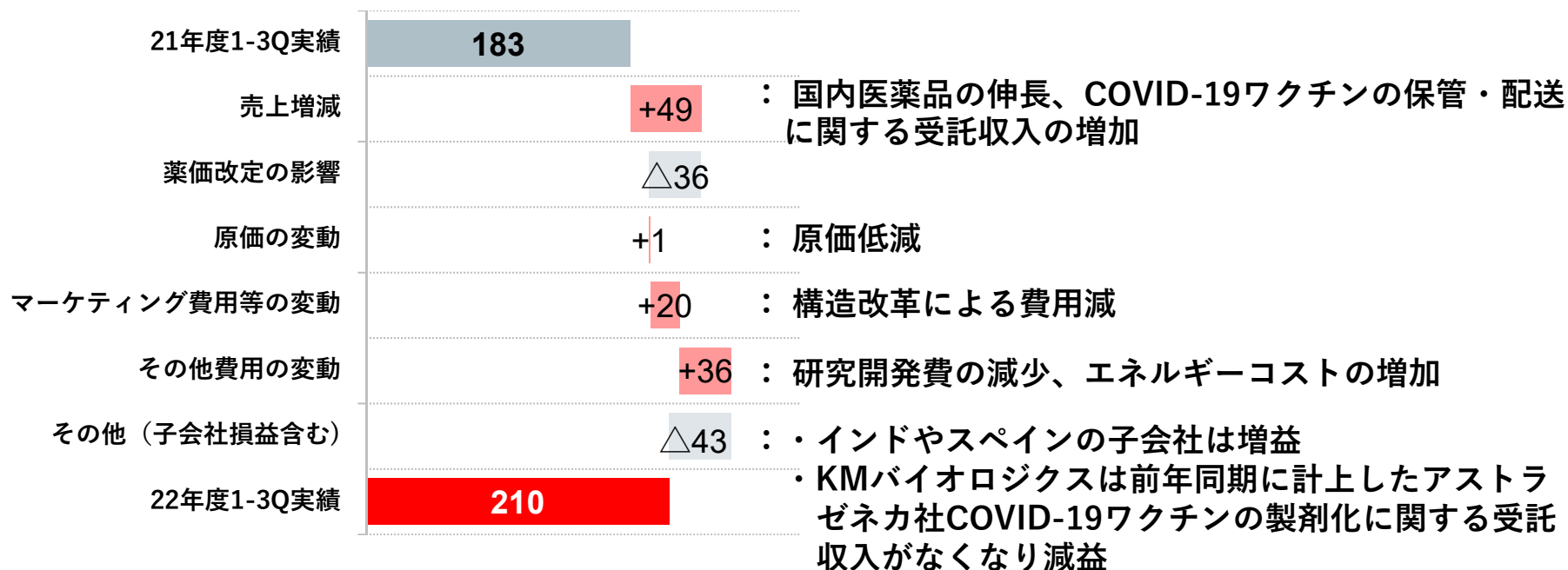
- プロバイオティクス・ヨーグルト：11月～
- チーズ：4月～、10月～



医薬品：2022年度 第3四半期 決算概要

(億円)	21年度 1-3Q実績	22年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	22年度 通期計画 (2/9修正)
売上高	1,444	1,487	+3.0% +42	75.3%	1,975
営業利益	183	210	+14.4% +26	105.2%	200

営業利益 増減分析

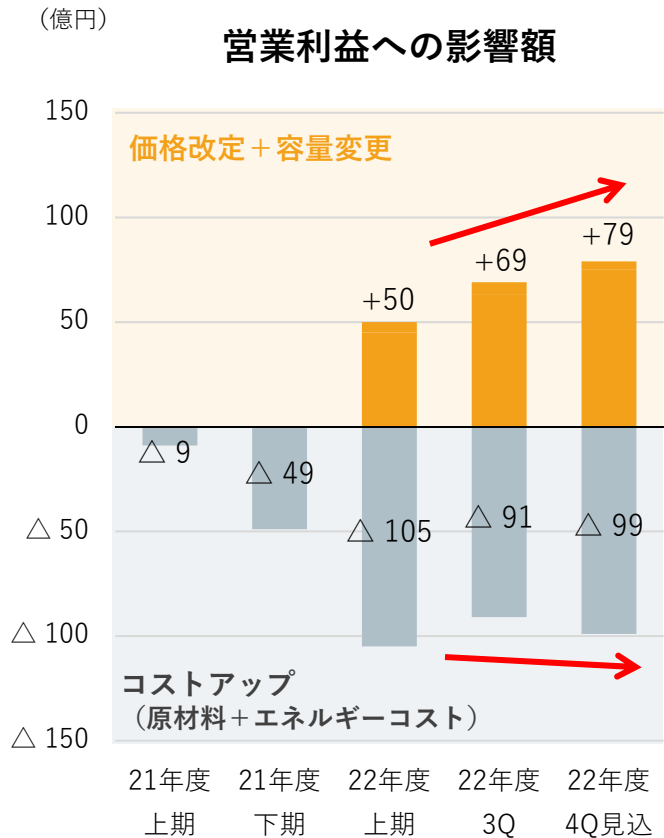


2022年度 連結計画：修正

(億円)		21年度 通期実績	22年度 通期計画 (2/9修正)	前年同期比	22年度 通期計画 (11/8修正)
連結	売上高	10,130	10,580	+4.4% +449	10,525
	営業利益	929	775	△16.6% △154	835
	営業利益率	9.2%	7.3%	△1.8 pt	7.9%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	874	620	△29.1% △254	600
食品	売上高	8,260	8,612	+4.3% +351	8,536
	営業利益	759	600	△21.0% △159	660
医薬品	売上高	1,879	1,975	+5.1% +95	1,994
	営業利益	186	200	+7.2% +13	200

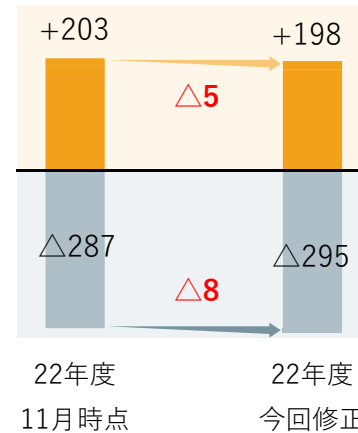
- 3Qの進捗を踏まえて、通期の連結営業利益は減額修正
- 医薬品は順調だが、食品のコストアップ影響を数量増でカバーしきれず
- 当期純利益は固定資産売却益により増額修正

食品：コストアップへの対応



- コストアップの影響は高止まりだが、価格改定・容量変更の効果が徐々に拡大

- 11月時点の通期計画との差

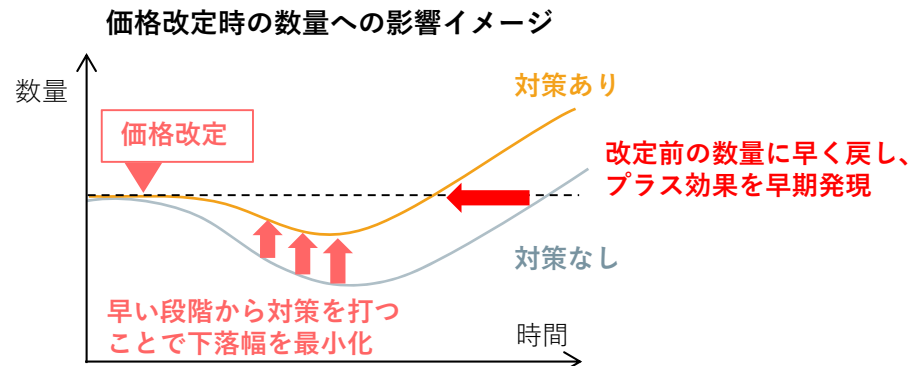


- 価格改定が一部商品で定着遅れ

- エネルギーコストの上昇が想定を上回る

[想定為替レート]
1USD=145円

- 課題：
マーケティング活動強化による売上数量の回復・伸長





参考資料

2022年度 第3四半期 連結財政状態

(億円)	22年12月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	5,404	+18.6% +848	・受取手形及び売掛金 (+438) ・現金及び預金 (+203) ・原材料及び貯蔵品 (+105) ・その他 (+79)
固定資産	6,744	+1.9% +126	・建物及び構築物 (純額) (+73) ・投資有価証券 (+39)
資産合計	12,149	+8.7% +975	—
流動負債	3,566	+24.4% +698	・短期借入金 (+356) ・コマーシャル・ペーパー (+250)
固定負債	1,101	△6.4% △74	・社債 (△100) ・退職給付に係る負債 (+35)
負債合計	4,668	+15.4% +623	—
株主資本	6,459	+2.1% +131	・利益剰余金 (+226) ・自己株式 (△96)
その他の包括利益 累計額	616	+52.3% +211	・為替換算調整勘定 (+219)
非支配株主持分	405	+2.2% +8	—
純資産合計	7,481	+4.9% +351	—
有利子負債	1,389	+71.0% +577	・短期借入金 (+356) ・コマーシャル・ペーパー (+250)
自己資本比率	58.2%	△2.0 pt	—

2022年度 第3四半期 連結C F

(億円)	22年度 1-3Q実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	366	△384	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (△158) ・契約負債の増減額 (△143) ・売上債権の増減額 (△128) ・仕入債務の増減額 (+70)
投資キャッシュフロー	△417	+35	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (+108) ・補助金の受取額 (△77)
フリーキャッシュフロー	△51	△348	—

食品：2022年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フローズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
21年度1-3Q営業利益	617	266	167	95	△2	22	27	△3	42
売上増減	+65	△35	+25	+23	△5	+22	+14	+10	+10
原価の変動	△149	△30	△44	△28	△5	△14	△15	△7	△6
経費等の増減	△67	△34	△20	△1	+1	△7	+4	△3	△6
マーケティング費用 等の変動	△21	△24	△1	+3	+8	△3	+2	△1	△3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△46 (+3)	△10	△19	△5	△6	△5	+3	△2	△2
その他 (子会社損益など)	△15	+4	△0	△2	△6	△0	+0	+0	△11
22年度1-3Q営業利益	451	169	128	88	△17	22	31	△2	30

食品：2022年度 第3四半期 主力品の売上動向

(億円)	21年度 1-3Q実績	22年度 1-3Q実績	22年度		22年度 通期計画 (2/9修正)
			前年同期比	通期計画 進捗率	
ヨーグルト	624	580	△6.9%	75.7%	767
プロバイオティクス ヨーグルト	738	702	△4.9%	72.1%	974
市販チーズ	225	213	△5.7%	76.2%	279
チョコレート	696	713	+2.4%	71.1%	1,002
乳幼児ミルク・流動食	490	517	+5.3%	76.9%	672
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	343	356	+3.8%	78.3%	455
市販・宅配牛乳	593	551	△7.1%	75.9%	726
市販アイスクリーム	330	337	+2.4%	81.8%	412

食品：2022年度 第3四半期 主な事業別概況

■ ニュートリション

(億円)	22年度	
	1-3Q実績	前年同期比
売上高	906	+5.4% +46
営業利益	128	△23.5% △39

- 市場
 - スポーツプロテイン（粉末・顆粒）：
店頭は△3~4%、ECはホエイを中心に好調
 - 流動食：病院・在宅ともに伸長
- 売上高
 - 流動食や乳幼児ミルクは引き続き好調
 - 「ザバス」シリーズは、ドリンクタイプの高い成長続く。粉末タイプの競争は依然として厳しいが、ECの販促強化は奏功
- 営業利益

原材料コストやエネルギーコスト、減価償却費の増加により、大幅減益

■ チョコレート・グミ

(億円)	22年度	
	1-3Q実績	前年同期比
売上高	752	+4.8% +34
営業利益	88	△7.9% △7

- 市場
 - チョコレート：△1~2%
 - グミ：+23~24%
- 売上高

チョコスナック、「チョコレート効果」、グミが引き続き売上成長をけん引
- 営業利益

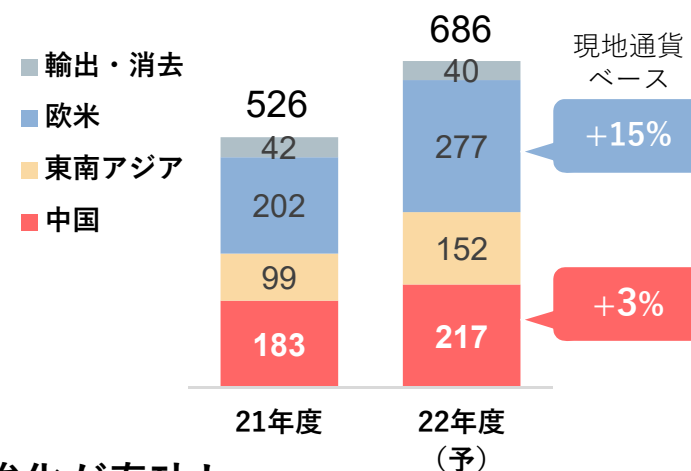
原材料コストやエネルギーコストの増加で減益

食品：2022年度 第3四半期 主な事業別概況

■ 海外

(億円)	22年度 1-3Q実績	前年同期比
売上高	499	+30.3% +116
営業利益	△2	— +1

地域別売上高（億円）



● 中国

- アイスクリームは、販売エリアの拡大や商品開発の強化が奏功し、力強い成長が続く
- 菓子はロックダウンの影響は限定的で、主力品が好調に推移
- 市販用牛乳・ヨーグルトは苦戦。販売エリアの拡大と商品ラインアップの拡充に取り組む
- 業務用は引き続き新規顧客獲得で拡大
- 23年1月には天津で、牛乳・ヨーグルト新工場が稼働開始

● 米国

- 原材料高に対応し、価格改定を実施。明治ブランドのチョコレートスナックは引き続き数量ベースでも好調に推移
- SKU数の見直しによる収支改善も着実に進む

医薬品：2022年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬*
21年度1-3Q営業利益	183	31	29	130	△6
売上増減	+49	+76	+16	△15	△28
薬価改定の影響	△36	△36	—	—	—
原価の変動	+1	△2	△3	+6	+0
経費等の増減	+56	+26	+1	△5	+34
マーケティング費用等の変動	+20	+3	+1	△3	+18
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+36 (+39)	+23	+0	△2	+16
その他 (子会社損益など)	△43	△0	+19	△68	+5
22年度1-3Q営業利益	210	93	62	48	5

*21年度には事業譲渡前の農薬事業の実績が含まれます。また22年4月に動物薬および動物用ワクチン事業を担う明治アニマルヘルス株式会社が設立されたことに伴い、22年度の動物薬事業の営業損益は「その他（子会社損益など）」に集約されています。

医薬品：2022年度 第3四半期 主な事業別概況

■ 国内医薬品

(億円)	22年度 1-3Q実績	前年同期比
売上高	735	+10.4% +69
営業利益	93	+201.6% +62

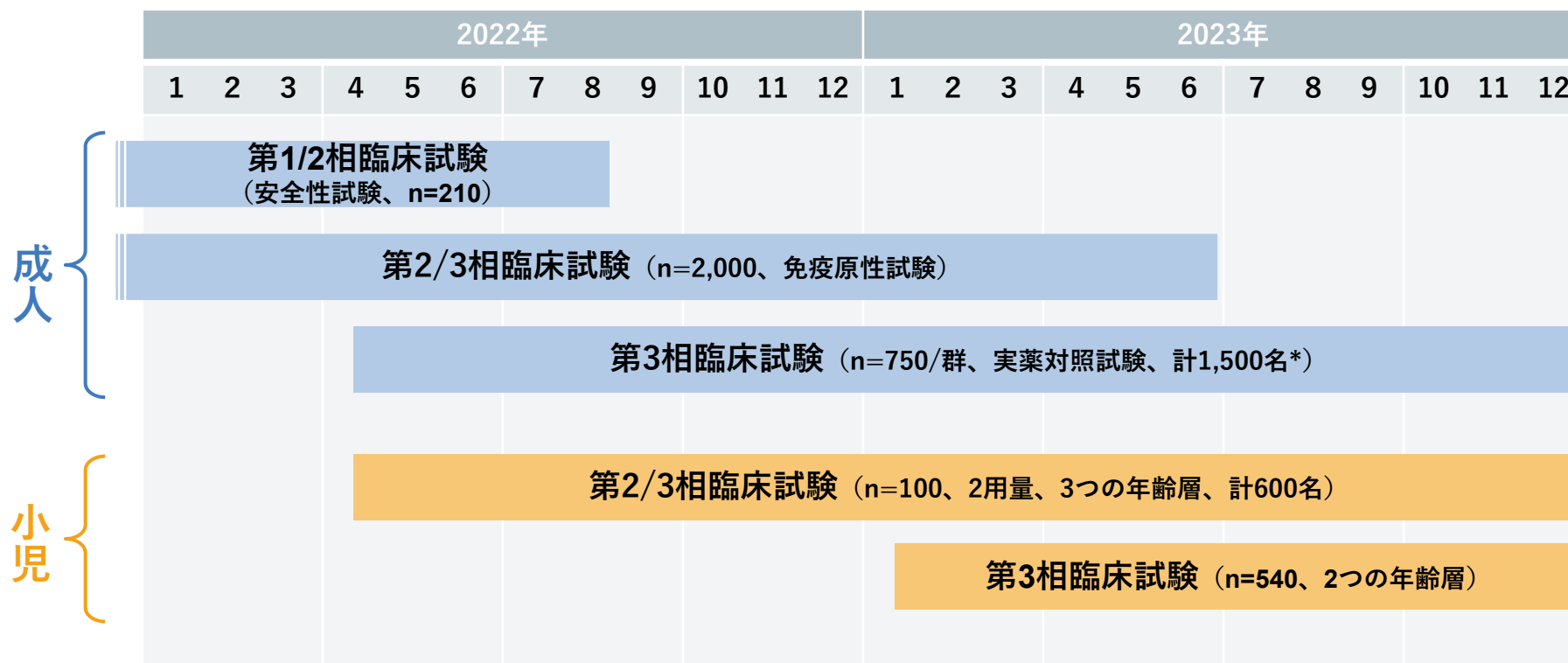
- 売上高
「スルバシリン」などの注射用抗菌薬や新型コロナウイルス抗原検査キット、抗腫瘍剤「ハイヤスタ」が増収
- 営業利益
研究開発費が減少。増収効果も大きく、大幅増益
- その他
研究所の閉鎖や営業拠点再編などの構造改革を推進

■ ヒト用ワクチン

(億円)	22年度 1-3Q実績	前年同期比
売上高	281	△24.5% △91
営業利益	48	△62.9% △82

- 売上高
 - ・ インフルエンザワクチンの市場供給量が過去最大となった一方、接種率は想定を下回る。返品リスクの高まりを受けて、引当金を増額
 - ・ 加えて、COVID-19ワクチン製剤化による収入が今期はなかったことで、全体としては減収
- 営業利益
受託収入の減と、返品引当金繰入の影響により大幅減益

医薬品：COVID-19不活化ワクチン（KD-414）の開発 **meiji**

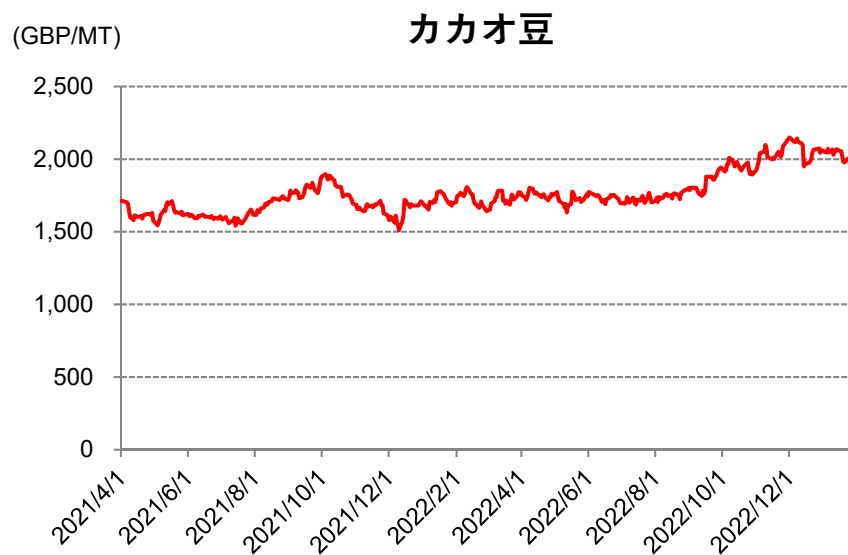
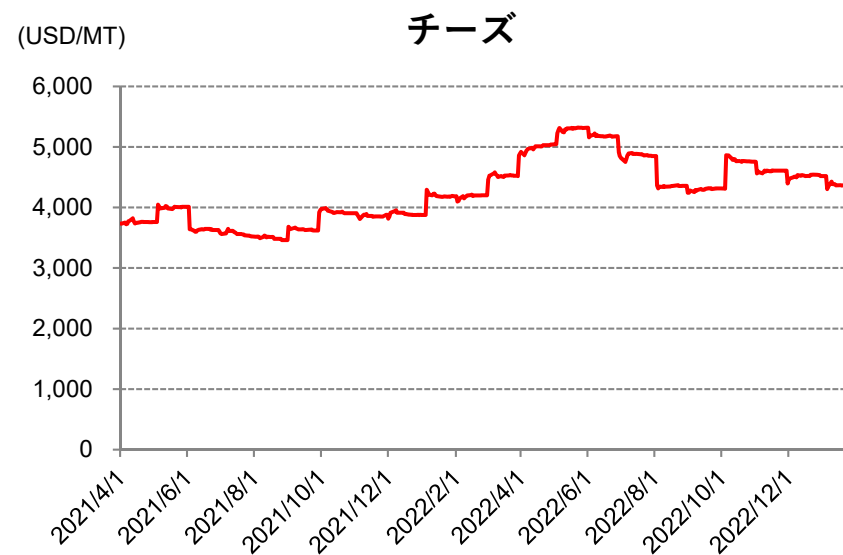
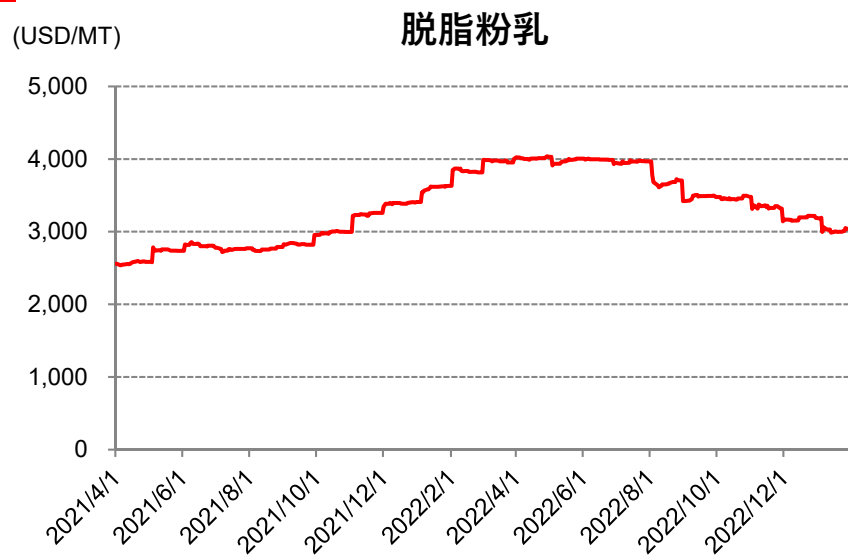


- 成人P2/3結果速報では、P1/2と同様に若い年齢層ほど中和抗体価が高い傾向
- 23年1月より小児P3開始
- 各臨床試験は順調に進捗、早期の供給を目指す

2022年度 連結計画

(億円)	21年度 通期実績	22年度 通期計画 (2/9修正)	前年同期比	22年度 通期計画 (5/12当初)	22年度 通期計画 (11/8修正)
売上高	10,130	10,580	+4.4% +449	10,355	10,525
営業利益	929	775	△16.6% △154	925	835
営業利益率	9.2%	7.3%	△1.8 pt	8.9%	7.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	874	620	△29.1% △254	625	600
EPS	607.24円	440.89円	△166.35円	433.76円	426.00円
1株当たり配当金	170円	170円	—	170円	170円
配当性向	28.0%	38.6%	+10.6 pt	39.2%	39.9%
ROE	13.5%	9.0%	△4.5 pt	9.0%	8.6%
ROIC	8.4%	6.4%	△2.0 pt	8.0%	7.2%
設備投資額	931	829	△11.0% △102	963	880
営業CF	1,275	540	△57.6% △735	700	600
フリーCF	999	△60	— △1,059	△200	△130

主要輸入原料相場の動向



健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。